

【A年】

聖霊降臨後第二十三主日

特定二十六

全能の神よ、あなたは独りのみ子を与えてわたしたちの罪のいけにえとし、また清い生涯の模範とされました。どうか深く感謝してその計り知れない恵みを受け、常に力を尽くしてみ跡を踏むことができませんように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はミカ書第三章五節から」

5 わが民を迷わす預言者たちに対して
主はこう言われる。

彼らは齒で何かをかんでいる間は
平和を告げるが

その口にも与えない人には
戦争を宣言する。

6 それゆえ、お前たちには夜が臨んでも
幻はなく

暗闇が臨んでも、託宣は与えられない。
預言者たちには、太陽が沈んで昼も暗くなる。

7 先見者はうるたえ
託宣を告げる者は恥をかき
皆、口ひげを覆う。神が答えられないからだ。

8 しかし、わたしは力と主の霊
正義と勇氣に満ち
ヤコブに咎を

イスラエルに罪を告げる。

9 聞け、このことを。ヤコブの家の頭たち
イスラエルの家の指導者たちよ。

正義を忌み嫌い、まっすぐなものを曲げ
流血をもつてシオンを

不正をもつてエルサレムを建ててる者たちよ。
11 頭たちは賄賂を取って裁判をし

祭司たちは代価を取って教え
預言者たちは金を取って託宣を告げる。

しかも主を頼りにして言う。
「主が我らの中におられるではないか

災わざわいが我々われわれに及およぶことはない」と。

12 それゆえ、お前まえたちのゆえに

シオンは耕たがやされて畑はたけとなり

エルサレムは石塚いしづかに変わり

神殿しんでんの山やまは木の生おい茂しげる聖せいなる高台たかだいとなる。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一三二編

1 主しゅよ、わたしの心こころはおごらず、高たかぶらず＝偉大いだいなこ

と、身みに余あまることを求めもとめようとしない

2 心こころ静しずかにわたしは憩いこう、母ははの胸むねに安やすらぐ幼子おさなごのように

＝安やすらぐ幼子おさなごのようにわたしの魂たましいはわたしのうちに

憩いこう

3 イスラエルよ、主しゅを待ち望のぞめ＝今いまよりとこしえに

使徒書

朗読者 「使徒書はテサロニケの信徒への手紙I第二章九から」

9 兄弟きょうだいたち、わたしたちの労苦ろうくと骨折ほねおりを覚えていてるでしょう。わたしたちは、だれにも負担ふたんをかけまいとして、夜も昼も働はたらきながら、神かみの福音ふくいんをあなたに宣のべ伝つたえたのでした。10 あなたがた信者しんじやに対して、わたしたちがどれほど敬虔けいけんに、正ただしく、非難ひなんされることのないようにふるまったか、あなたがたが証あかしし、神かみも証あかししてくださいます。11 あなたがたが知っているとおりに、わたしたちは、父親ちちおやがその子供こどもに対して、御自身ごじしんの国くにと栄光えいこうにあずからせようと、神かみはあなたがたを招まねいておられます。

13 このようなわけで、わたしたちは絶えず神かみに感謝かんしゃしていただきます。なぜなら、わたしたちから神かみの言葉ことばを聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉ことばとしてではなく、神かみの言葉ことばとして受け入れたからです。事実じじつ、それは神かみの言葉ことばであり、また、信じているあなたがたの中に現まに働はたらいているものです。14 兄弟きょうだいたち、あなたがたは、ユダヤの、キリスト・イエスに結むすばれている神かみの諸教会しよかいに倣ならう者ものとなりました。彼らかれがユダヤ人じんたちから苦くるしめられたように、あなたがたもまた同胞どうぼうから苦しめられたからです。15 ユダヤ人じんたちは、主しゅイエスと預言者よげんしやたちを殺ころしたばかりでなく、わたしたちをも激げしく迫害はくがいし、神かみに喜よろこばれることをせず、あらゆる人々ひとびとに敵対てきたいし、16 異邦人いほうじんが救

われるようにわたしたちが語るのを妨げています。こうして、いつも自分たちの罪をあふれんばかりに増やしているのです。しかし、神の怒りは余すところなく彼らの上に臨みます。

17 兄弟たち、わたしたちは、あなたがたからしばらく引き離されていたので、——顔を見ないというだけで、心が離れていたわけではないのですが——なおさら、あなたがたの顔を見たいと切に望みました。18 だから、そちらへ行こうと思いましたが、殊に、わたしパウロは一度ならず行こうとしたのですが、サタンによって妨げられました。19 わたしたちの主イエスが来られるとき、その御前でいたいあなたがた以外ののだが、わたしたちの希望、喜び、そして誇るべき冠でしょう。20 実に、あなたがたこそ、わたしたちの誉れであり、喜びなのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第二十三章一節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。
2 「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。3 だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見做ってはならない。言うだけで、実行しないからである。4 彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。5 そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。6 宴会では上座、会堂では上席に座することを好み、7 また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。8 だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。9 また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。10 『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。11 あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。12 だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

司祭 「主に感謝」

会衆

「主に感謝します」